

LANdeBOOT

REMOTE POWER CONTROLLER

ラン・デ・ブート

RPC6000L

ユーザース・マニュアル



ご購入ありがとうございます

LAN・デ・ブート RPC6000Lをご購入いただき誠にありがとうございます。

LAN・デ・ブート RPC6000はネットワーク経由で制御/管理をする電源制御装置です。8個の100VAC電源を個別に制御/管理でき、またケーブル接続された無停電電源装置をネットワーク経由で管理することもできます。デ・ブートが皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

このマニュアルを必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。ご使用前に、必ず本書をお読みください。お読み終わった後も大切に保管してください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. ユーザーズ・マニュアル(本書) 1部
2. ラック取り付け金具及び取り付けネジ 1Set
3. CD-ROM 1枚
(内 容) ・ユーザーズ・マニュアル(PDF ファイル)
・ユーティリティソフト・インストールファイル
・Acrobat Reader インストールファイル
・プライベートMIB ファイル
4. 保証書 1部
5. RS232C(クロス)ケーブル 1本
6. 2P/3P 変換コネクタ 1個
7. シャットダウンケーブル(XH-9609) 1本

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は⊘の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

AC100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない
表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。
特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。
感電や故障の原因となります。



アース接地

本装置背面のACコンセントは15Aまで

本装置背面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。
合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。
本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用



警告

ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

異物を入れない

製品の通気孔などに、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない
スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、F G端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。また、雷がひどい場合は、本装置の電源プラグをコンセントから抜き、接続されているコネクタ類をすべて抜いて、雷がおさまるまで使用を控えてください。



雷のときは、触らない

分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

注意

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

通気孔をふさがない

製品には、内部の温度上昇を防ぐために通気孔が開けられています。壁際への設置は、通気孔から5 cm以上離してください。通気孔から5 cm以内に、物などを置かないでください。内部に熱がこもり、やけどや火災の原因となることがあります。



通気孔をふさがない

風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

温度が高くなる場所に置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になる場所に置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

注意

逆さまに設置しない

本装置の足を下にした以外の置き方はしないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

不安定な場所やお子様手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

第 1 章	はじめに	9
	1. 機能概要	
	2. 接続可能な無停電電源装置 (UPS)	
	3. 各部の名称と機能	
	4. DIP スイッチの設定	
	5. LED 表示について	
第 2 章	設置・取り付け	14
	1. デスクトップへの設置	
	2. ラックへの取り付け	
第 3 章	初期設定	16
	1. ユーティリティによる設定	17
	1) ユーティリティの起動	
	2) 設定内容の入力	
	3) 変更内容の有効化	
	4) 設定終了	
	2. ターミナルソフトによる設定	19
	1) 接続	
	2) 設定内容の入力	
	3) 内容の有効化	
	4) 設定終了	
	5) コマンド一覧	
第 4 章	機能設定	22
	1. ログイン	
	2. 電源制御設定	
	3. ネットワーク設定	
	4. セキュリティ設定	
	5. 監視設定	
	6. Wakeup 設定	
	7. ログアウト	

第 5 章 デバイスの制御	37
1. Web ブラウザによる制御	38
1) ログイン	
2) デバイスの制御	
3) システム情報一覧	
4) ログアウト	
2. telnet による制御	40
1) ログイン	
2) コマンドラインによる制御	
3) ログアウト	
4) コマンドライン一覧	
第 6 章 シャットダウン	42
1. シャットダウンについて	
2. 接続	
3. 設定	
第 7 章 カスケード接続	42
1. カスケード接続について	
2. 本機同士の接続	
3. 設定	
4. デバイスの制御	
第 8 章 無停電電源装置 (UPS) との連携	45
1. 本機と UPS の接続	
2. Web ブラウザによる設定	
3. Web ブラウザによる管理	
第 9 章 システム情報の一覧	49
1. システム情報について	
第 10 章 SNMP の使用	51
1. SNMP について	
2. MIB について	
第 11 章 ハードウェア仕様	53

第 1 章
はじめに

1. 機能概要

本機には以下の機能があります。

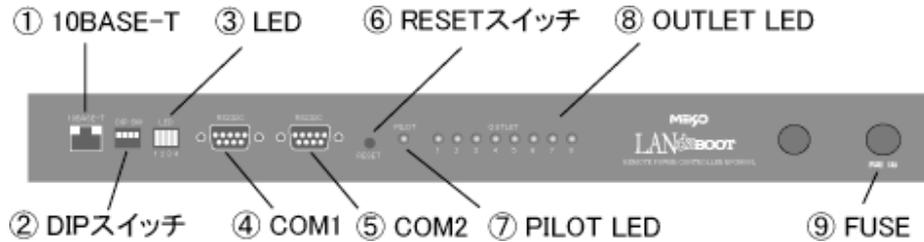
- 1) 8 個の 100 V A C 電源を個別に遠隔制御/管理
 - ・ ハングアップした P C / サーバや通信機器の遠隔リブート
 - ・ P C / サーバの個別シャットダウン
- 2) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・ 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 3) 無停電電源装置 (U P S) 接続による電源管理
 - ・ 停電発生時、接続された P C / サーバのバックアップ処理
 - ・ U P S 状態 (バッテリや出力電源状態) のネットワーク管理
- 4) Ping による状態監視
 - ・ 異常を検知し、ホストへの通知や接続機器の自動リブート
- 5) MAGICPACKET による起動
 - ・ Wakeup on LAN 対応デバイスのブートアップ

2. 接続可能な無停電電源装置 (U P S)

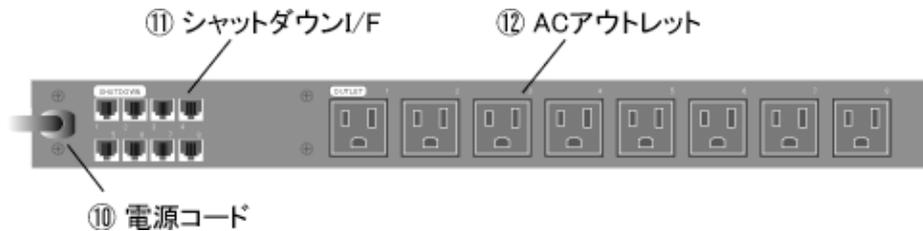
- 1) シリアル通信式 無停電電源装置 (U P S)
 - ・ B I R O S - F N D シリーズ
 - ・ B I R O S - F N X シリーズ
- 2) 接点通信式 無停電電源装置 (U P S)
 - ・ W i n d o w s N T 標準 U P S サービスに対応している必要があります。
 - ・ バッテリ状態のモニタリングはできません。

3 . 各部の名称と機能

フロントパネル



リアパネル



10BASE-T	LAN ケーブル (8 ピン RJ45) を接続します。
DIP スイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
LED	CPU の通信状態を表示します。
COM1	初期設定用及び UPS 接続用通信ポートとして使用します。
COM2	カスケード接続用通信ポートとして使用します。
RESET スイッチ	出力電源に影響を与えずに CPU を初期化します。
PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
FUSE	ガラス管ヒューズ 15A を使用します。
電源コード	商用電源、UPS などに接続します。
シャットダウン I/F	シャットダウンケーブル (別売) を接続します。
AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

4 . D I Pスイッチの設定

注意 D I Pスイッチを操作するときは、本体の AC アウトレットから全デバイスを取り外してください。また設定終了後は、必ず本体の電源リセットをしてください。誤動作する恐れがあります。

D I Pスイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード	
1	OFF	UPS との接続 (シリアル通信)	
	ON	UPS との接続 接点信号	
2	OFF	3 が上(OFF)の場合	マスターユニット
	ON		スレーブユニット
	OFF	3 が上(ON)の場合	メンテナンスモード (初期設定)
	ON		不使用
3	OFF	運転モード	
	ON	メンテナンスモード (初期設定)	
4	不使用	常に上(OFF)	

D I Pスイッチの設定

		1	2	3	4
マスターユニット	シリアル通信式 UPS 接続	OFF			
		ON			
	UPS 接続	OFF			
		ON			
	接点信号式 UPS 接続	OFF			
		ON			
スレーブユニット	カスケード接続時	OFF			
		ON			
初期設定時		OFF			
		ON			

5. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

P.12「3.各部の名称と機能」参照

1) LED

CPUの通信状態を表示します。

NO.	用途	状態	表示
1	不使用	点灯しません。	
2	TCP/IP 通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯
3	シリアル通信状態	シリアルデータ送信時 シリアルデータ受信時	点灯 消灯
4	CPU 状態	正常運転時	点滅

2) PILOT LED

デ・ブート本体に電源投入されている場合に点灯します。

3) OUTLET LED

ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

第 2 章 設置・取り付け

1. デスクトップへの設置

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。
設置場所は、単相 100VAC/15A以上のコンセントに直接差し込める場所で、本体背面にデバイスの電源プラグやコネクタが、差し込みやすい位置であることを確認してください。
- 2) 本体前面の 10BASE-T に LAN ケーブル を接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 必ずゴム脚を下にして設置してください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ゴム脚を外します。
- 2) 本体に同梱のネジ 8 本でラック・マウント用金具を取り付けます。
- 3) ラック・キャビネットに本機を取り付けます。
- 4) 本体前面 10BASE-T に LAN ケーブル を接続します。
- 5) 電源コードをコンセントに接続します。

第 3 章 初期設定

初期設定は、付属の設定用ユーティリティ (Windows 用) を利用します。

1. ユーティリティによる設定

設定用ユーティリティのインストール手順は添付CDのread me. textを参照してください。設定用PCと本機とは、付属(クロス)ケーブルで接続します。設定ユーティリティソフトはWindows PC対応ソフトです。それ以外の端末から設定する場合は、コンソールプログラムを利用して直接コマンド入力します。

1) ユーティリティの起動

本体前面のDIPスイッチ.3をON(下)にします。

ユーティリティソフトを起動します。

図が表示されます。

図



パスワード「magic」(デフォルト値)を入力し、COMポートを選択して「接続」ボタンをクリックします。図が表示されます。接続に失敗した場合は、本体前面のRESETスイッチを押して、再度実行してください。

図



2) 設定内容の入力

TCP/IP ネットワーク設定

本機のネットワークに関する設定をします。

- ・ IPアドレス
- ・ サブネット・マスク
- ・ デフォルトルート (ゲートウェイ)
- ・ 同サブネット・マスク
- ・ ブロードキャストアドレス
- ・ HTTPポート番号

Webサーバにアクセスさせるポート番号を入力します。

デフォルト値は「80」です

パスワード設定

新しく設定するパスワードを2回入力し、「変更」ボタンをクリックします。

新しいパスワードが登録されます。

TELNET機能

TELNETサーバプログラムで電源制御する機能の有効化/無効化を設定します。

3) 変更内容の有効化

画面右下にある「適用」ボタンをクリックし、内容を保存します。

<p>注意 「適用」ボタンのクリックを行わない場合、入力内容は反映されません。ご注意ください。</p>
--

4) 設定終了

画面右下にある「終了」ボタンをクリックします。

DIPスイッチ.3 をOFF (上) に戻します。

以上で初期設定は完了です。

2. ターミナルソフトによる設定

1) 接続

次の手順に従いアクセスします。

本体前面の COM ポート 1 とターミナル端末の COM ポートとを付属ケーブルで接続します。

ターミナルソフトを起動し、COM ポートを以下のとおりに設定します

通信速度 : 38400bps
データビット : 7 ビット
パリティ : なし
ストップビット : 1 ビット

DIP スイッチ . 3 を、ON (下) にします。設定プログラムが起動し、下図が表示されます。

```
——— SNMP Agent System Configuration Utility ———  
Password:
```

パスワード(デフォルト値:magic)を入力し、ENTER キーを押すと、プロンプト「>」が表示されます。

2) 設定内容の入力

処理コマンド、設定コマンドにより設定の確認や変更をします。

詳しくはP22「3.コマンド一覧」参照

設定例) IPアドレス

設定内容を取得します。

「ipAdEntAddr」と入力し、<Enter>キーを押します。

現在のIPアドレスを応答します。

他の設定コマンドについても同様です。

```
>ipAdEntAddr <Enter>  
ipAdEntAddr=192..168.10.188  
>
```

設定内容を変更します。

変更内容「ipAdEntAddr=192.168.2.150」と入力し、<Enter>キーを押します。変更が正常処理されると、新しい設定内容が表示されます。

```
>ipAdEntAddr=192.168.2.150 <Enter>
ipAdEntAddr=192.168.2.150
>:w
>FROM update
```

3) 設定内容の有効化

変更内容を有効化します。

「:w」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

注意 設定変更後は、必ず「:w」コマンドを実行してください。
コマンドがないと設定が反映されません。

4) 設定終了

そのまま、ターミナルソフトを終了します。

特別な処理は必要ありません。

3. コマンド一覧

処理コマンド

処理コマンド	内 容
: r	現在のメモリー内容を表示する
: w	設定内容をメモリーに書き込む
: e	エコーバックの ON/OFF 切替え

設定コマンド

設定コマンド	内 容
Password	パスワードを変更します
IpAdEntAddr	本体 I P アドレスを設定します
IpAdEntNetMask	本体のサブネット・マスクを設定します
IpRouteDest	デフォルトルート（ゲートウェイ）を設定します
IpRouteMask	デフォルトルートのサブネット・マスクを設定します
IpAdEntBcastAddr	ブロードキャストアドレスを設定します
HttpPort	Webプログラムが起動する T C P ポート番号を設定します

第 4 章 機能設定

機能設定は、Webコントロールプログラムを利用して設定します。

1. ログイン

- 1) Webブラウザを起動し、初期設定で本機に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合
http://192.168.10.10

HTTPポート番号「500」に設定した場合
http://192.168.10.10:500

- 2) トップメニューが表示されます。

トップメニュー画面



- 3) 「設定メニュー」をクリックします。

4) 設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー画面



5) 設定する項目を選びクリックします。ログイン画面が表示されます。

ログイン画面



6) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。選んだ画面が表示されます。

ユーザー名 : admin (固定)

パスワード : magic (デフォルト値)

2. 機器の設定

本機に接続されたデバイスの電源制御に関する設定をします。

設定メニュー画面で、「機器の設定」をクリックします。
機器の設定画面が表示されます。

機器の設定画面



1) 機器名

本機に名前をつけることができます。半角英数字 20 文字以内で指定します。複数の本機を一括管理する場合に便利です。

2) OUTLET 設定

OutletName (デバイス名称)

各アウトレットに名前をつけ、接続されたデバイスを識別します。半角英数字 20 文字以内で指定できます。

Shutdown (電源出力停止遅延時間)

各アウトレットの電源出力を停止する際の遅延時間を設定します。この設定により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。「-1」設定は、ルーターやハブなどの通信機器を接続する場合に便利です。電源切断により、その後ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。この遅延時間は以下の処理を行う際に適用されます。

- ・一斉電源OFF処理
- ・個別アウトレットの電源OFF処理
- ・停電時のバックアップ処理

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

- 「 -1 」 : 電源OFF処理を使用不可にします。リブート処理のみ可能です。
- 「 0 」 : 即座に電源出力を停止します。
- 「 1 ~ 3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

Reboot (リブート時間)

接続されたデバイスへの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この遅延時間は以下の処理を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレットのリブート処理

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

Power On (電源出力開始遅延時間)

本機に電源が投入された際、接続されたデバイスの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続されているデバイスを指定した順番に、指定したタイミングで起動できます。

なお、一斉電源ONおよび一斉リブート処理時も、この設定に従い電源出力を開始します。この遅延時間は以下の処理を行う際に適用されます。

- ・本体電源投入時
- ・一斉電源ON処理
- ・一斉リブート処理

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

- 「 -1 」 : 本体の電源投入時に、自動で電源出力を開始しません。一斉電源ON、一斉リブート処理の場合も同様です。
- 「 0 」 : 即座に電源出力を開始します。
- 「 1 ~ 3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

3) 共通設定

再起動時間 (一斉リブート時間)

全アウトレットの接続デバイスを一斉リブートする際、電源出力を停止してから順次電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の処理を行う際に適用されます。

- ・一斉リブート処理

設定可能値 : 8~300 (秒)

自動ログアウト時間

Web コントロールプログラムから自動的にログアウトする時間を設定します。通信状態にかかわらず、指定した時間が経過すると強制的にコネクションを切断します。

設定可能値 :
デフォルト値 : 600

各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックしてください。
「設定更新」ボタンのクリックがないと設定が反映されません

他の項目の機能設定をします。「設定メニュー」ボタンをクリックします。
設定メニュー画面に戻ります。

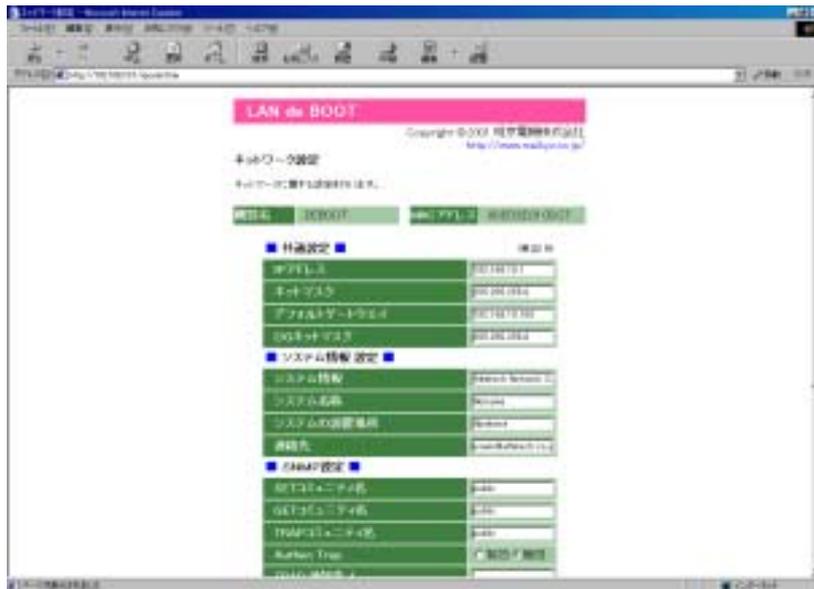
機能設定を終了する場合は、ログアウトします。
詳しくはP.37「7.ログアウト」参照

3. ネットワーク設定

本機のネットワークに関する設定をします。

設定メニュー画面で、「ネットワーク設定」をクリックします。
ネットワーク設定画面が表示されます。

ネットワーク設定画面



1) 共通設定

IPアドレス、サブネット・マスク、デフォルトゲートウェイ、デフォルトゲートウェイネットマスクを設定します。各項目入力後、本体前面の RESET スイッチを押して本機をリセットします。

注意 設定後は、必ず本体前面の RESET スイッチを押してください。
本機のリセットをしないと設定が反映されません。

2) システム情報設定

システム情報、システム名称、システムの設置場所、連絡先の設定です。システム管理上必要があれば設定します

3) SNMP設定

SNMP マネージャーを利用してシステム管理をする場合に、SNMP 設定が必要です。

コミュニティ名

SET、GET、TRAPそれぞれを設定します。

AuthenTrap機能

デフォルト : 無効

authentication Failure Trap を送信したい場合に有効とします。

TRAP通知先

最大8個のホストをトラップ通知先として設定できます。ホストのIPアドレスを入力します。

各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

<p>注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックしてください。 「設定更新」ボタンのクリックがないと設定が反映されません</p>
--

他の項目の機能設定をします。「設定メニュー」ボタンをクリックします。
設定メニュー画面に戻ります。

機能設定を終了する場合は、ログアウトします。

詳しくはP.37「7.ログアウト」参照

4. セキュリティの設定

本機のセキュリティに関する設定をします。

設定メニュー画面で、「セキュリティの設定」をクリックします。
セキュリティ設定画面が表示されます。

セキュリティ設定画面



セキュリティ設定.1 は本機のアウトレット.1 に接続されたデバイスを示します。
以下、2～16まで同様となります。

1) セキュリティ制御

有効、無効を選択します。

有効：アクセス、操作を制限します。

無効：ユーザー名やパスワードが一致すれば全ての操作を無条件に許可します。

2) セキュリティ設定

セキュリティ制御を有効にした場合、アクセスを許可するホストまたはネットワーク（最大8個）や、操作できる権限レベルを設定します。

IPアドレス

アクセスを許可するホストまたはネットワークのアドレスを入力します。

サブネット・マスク

ネットワークアドレスを設定する場合にのみ必要です。ホストアドレスの場合は、設定しないでください。サブネット・マスクはビット数を入力します。

例)

255 . 255 . 255 . 0 の場合は「24」

255 . 255 . 255 . 192 の場合は「26」とします。

レベル

セキュリティ制御を有効にした場合、アクセスを許可した各ホストまたはネットワークに対し、操作できる権限レベルを設定します。

権限レベルは以下の3段階です。

i d e n t : 情報の取得のみ
c o n t r o l : 「UPSの設定変更」を除く全ての権限
a d m i n : 全ての権限

設定例)

ホストの場合	I P アドレス	: 110 . 200 . 15 . 10
	サブネット	: (空欄、入力不可)
	レベル	: a d m i n
ネットワークの場合	I P アドレス	: 110 . 200 . 15 . 64
	サブネット	: 26 (255 . 255 . 255 . 192)
	レベル	: c o n t r o l

各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックしてください。
「設定更新」ボタンのクリックがないと設定が反映されません。
現在接続中のホストが、設定上「アクセス許可」されていない場合、
強制的にログアウトされ、アクセスできなくなります。

他の項目の機能設定をします。「設定メニュー」ボタンをクリックします。
設定メニュー画面に戻ります。

機能設定を終了する場合は、ログアウトします。

詳しくはP.37「7.ログアウト」参照

5. 監視設定

本機に接続されたデバイスの状態監視機能の設定をします。

設定メニュー画面で、「監視設定」をクリックします。
監視設定画面が表示されます。

監視設定画面



監視設定.1 は本機のアウトレット.1 に接続されたデバイスを示します。
以下、2～16まで同様となります。

1) 監視機能について

監視設定されたデバイスに対し、1分間隔で ping を送信し続けます。指定された回数デバイスからの応答がない場合に異常と判断し、設定された処理（Action）を実行します。

2) 監視設定

IPアドレス

監視設定したいデバイス欄にそのIPアドレスを入力します。入力されたアドレスに対して、状態確認の ping を送信します。

回数

状態異常を判定する回数を設定します。1分間隔で状態確認（ping）を行い、指定された回数応答が無い場合に異常と判定します。

Action

異常を検出した場合に行う処理を、以下のうちから設定します。

noAction	:	何も処理をしない
sendTrap	:	SNMPトラップを送信する
reset	:	デバイスをリブート(電源リセット)する
sendTrap and reset	:	SNMPトラップ送信とリブートを両方行う

各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックしてください。
「設定更新」ボタンのクリックがないと設定が反映されません

他の項目の機能設定をします。「設定メニュー」ボタンをクリックします。
設定メニュー画面に戻ります。

機能設定を終了する場合は、ログアウトします。
詳しくはP.37「7. ログアウト」参照

6. WakeUp 設定

本機に接続されたデバイスの Wakeup on LAN に関する設定をします。

設定メニュー画面で、「Wakeup 設定」をクリックします。
Wakeup 設定画面が表示されます。

Wakeup 設定画面



Wakeup 機能について

Wake up on LAN 対応の機器を電源出力開始と同時に MAGIC PACKET を送信し、ブートアップさせることができます。

2) Wakeup 設定

Mac アドレス

ブートアップさせるデバイスの MAC アドレスを入力します。

パケット送信回数、パケット送信間隔

MAGIC PACKET の送信回数と、送信間隔（秒）を設定します。

各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックしてください。
「設定更新」ボタンのクリックがないと設定が反映されません

他の項目の機能設定をします。「設定メニュー」ボタンをクリックします。
設定メニュー画面に戻ります。

機能設定を終了する場合は、ログアウトします。
詳しくはP.37「7.ログアウト」参照

7. ログアウト

全ての設定が終了し、Webブラウザを閉じる前にログアウト処理をします。

ログアウト処理

各画面の下部に「ログアウト」ボタンがあります。ボタンをクリックします。Webコントロールプログラムからログアウトします。画面はトップページに戻ります。Webブラウザを閉じます。

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のままWebブラウザをとじた場合、一定時間、本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、設定されている「自動ログアウト時間」を指します。

第 5 章 デバイスの制御

1.Webブラウザによる制御

1) ログイン

Webブラウザを起動し、本機に設定されたIPアドレスを指定して接続します。

例)

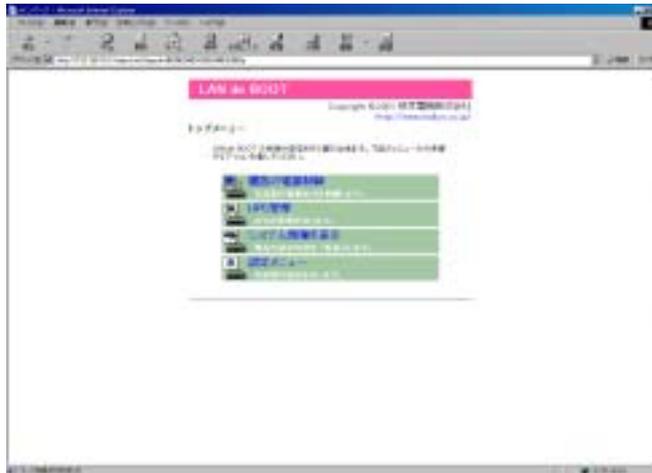
http://192.168.10.10 (HTTPポート番号がデフォルト「80」の場合)

http://192.168.10.10:500 (HTTPポート番号「500」に設定した場合)

HTTPポート番号は設定ユーティリティで指定します。

トップメニューが表示されます。

トップメニュー画面



「機器の電源制御」をクリックします。

ログイン画面が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入力して、ログインします。

ログイン画面



2) デバイスの制御

本機の電源出力制御および電源出力状態取得、またUPSの出力停止制御ができます。

電源制御画面



制御するデバイスの操作ボタンをクリックします。

各操作ボタンの動作

- ON : 指定したアウトレットの電源出力を開始します。
- OFF : 指定したアウトレットの電源出力を停止します。
- RESET : 指定したアウトレット接続デバイスをリポートします。

「最新情報に更新」ボタンをクリックします。

操作後の各アウトレットの電源状態を表示されます。

3) ログアウト

「ログアウト」ボタンをクリックします。

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のまま Web ブラウザをとじた場合、一定時間他のホストから本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、本機に設定されている「自動ログアウト時間」を指します。

2. telnet 接続による制御

本機はtelnetサーバプログラムへ接続して、遠隔からの電源制御および状態取得ができます。なお、telnetサーバプログラムに接続するTCPポート番号は「8000」です。

注意 ポート番号を指定しないとアクセスできません

1) telnetサーバプログラムへの接続

「telnet_“本機のIPアドレス”_8000 (TCPポート番号:固定)」を入力します。

プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

```
220 xxx.xxx.xxx.xxx RCON server ( Alfatech v1.0 ) ready
```

2) 制御コマンドラインの入力

制御コマンドラインを入力し、<ENTER>キーで実行します。
コマンドは全て大文字アルファベットで入力し、指定します。

制御コマンドライン構成

*	#xxxxn	
		: パスワード (最大16文字)
xxxx		: 制御コマンド
n		: アウトレット番号 1~8 (カスケード接続時: 1~16)

例) アウトレット5番をリブートします。

(パスワードは 12341234 とする)

```
*12341234#POR5
```

3) ログアウト

終了コマンド「EXIT」を入力し、<ENTER>キーで実行します。

3. コマンドライン一覧

MPON	...	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	...	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	...	全アウトレットのリブート(電源リセット)
PONn	...	指定したアウトレットの電源出力開始 n = 1~16
POFn	...	指定したアウトレットの電源出力停止 n = 1~16
PORn	...	指定したアウトレットのリブート(電源リセット) n = 1~16
POS	...	全アウトレットの電源状態取得 ON : 「1」, OFF : 「0」
EXIT	...	telnetサーバプログラムの終了

第 6 章 シャットダウン

1. シャットダウンについて

この機能により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。シャットダウン機能を利用して、コンピュータの管理や遠隔地からのリモート通信などが容易にできるようになります。

2. 接続

付属のシャットダウン・ケーブル(XH-9609)で、本機とパソコンを接続します。パソコンの電源ケーブルも本機に接続します。シャットダウン I/F 番号とアウトレット番号は合わせてください。

シャットダウン・ケーブル(XH-9609)の信号仕様は、以下の通りです。
イベント発生時は、負から正へ変化します。

CD : 電源供給停止信号

CS : シャットダウン信号

注意 シャットダウン・ケーブルは本機とパソコン間のシャットダウン以外に使用しないでください。誤った使用をしますと「接続した機器の故障」、「接続した機器の発火」などの原因となることがあります。

3. 本機の設定

Webコントロールプログラムを利用して設定します。

P25.「第4章機能設定 2.機能設定」参照

4. パソコンの設定

パソコンのシャットダウンに必要な設定は、必ず OS のマニュアルを参照してください。

注意 接続されたパソコンのデータは、定期的にバックアップを取ってください。

第 7 章 カスケード接続

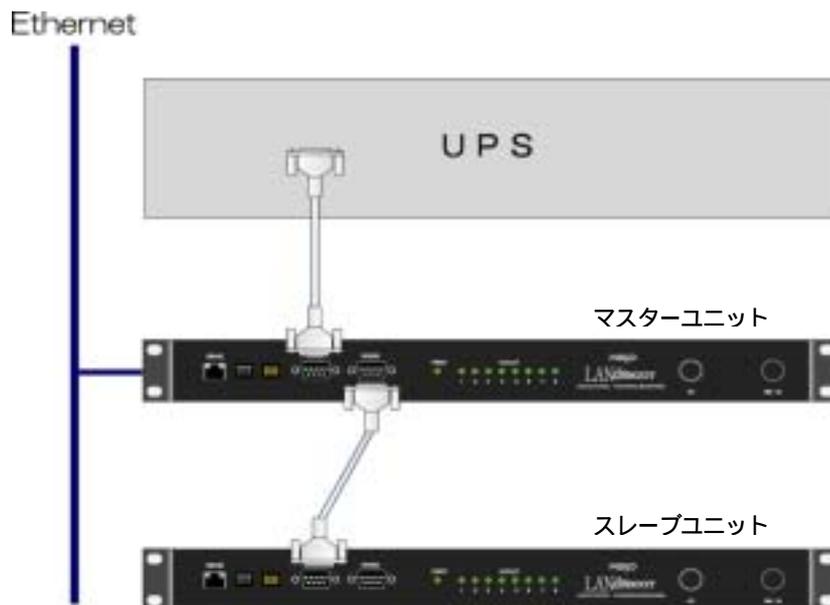
1. カスケード接続について

2 台のデ・ブートを付属（クロス）ケーブルでカスケード接続できます。カスケード接続により、1 つの IP アドレスで最大 16 個の電源出力を遠隔制御できます。また、1 台の UPS で最大 16 台（合計 3000W 以内）のサーバや通信機器をバックアップ処理ができるようになります。

注意 初期設定、機能設定は、全てマスターユニットに設定します。
スレーブユニットのそれらの設定は不要です。

参考 マスターユニット：上位接続（LAN 接続）ユニットを指します
スレーブユニット：下位接続ユニットを指します

接続図



2. 本機同士の接続

- 1) 本機の電源を切断します。
- 2) マスターユニット、スレーブユニットの本体前面DIPスイッチを設定します。

基本設定

		1	2	3	4
マスターユニット	OFF				
	ON				
スレーブユニット	OFF				
	ON				

詳しくはP13「第1章-1. DIPスイッチの設定」参照

- 3) マスターユニットとスレーブユニットを付属のRS232Cケーブルで接続します。
- 4) 両ユニットに電源を投入します。

3. 設定

初期設定、機能設定は、全てマスターユニットに設定します。初期設定の手順や内容は、P17「第3章 初期設定」を参照してください。

1) Web ブラウザによる機能設定

下記設定にスレーブユニットの項目が追加されています。ログインして設定します。
設定手順や内容は、P23「第4章 機能設定」を参照してください。

機器の設定

監視設定

WakeUp 設定

4. デバイスの制御

デバイスの制御は、全てマスターユニットから制御します。

1) Web ブラウザによる制御

「電源制御コントロール」メニューにスレーブユニットの項目が追加されています。
ログインして制御します。
制御手順や内容は、P39「第5章-1. Web ブラウザによる制御」を参照してください。

2) telnet による制御

コマンドライン末尾のアウトレット番号は1から16まで入力できます。
制御手順や内容は、P41「第5章-2. telnet による制御」を参照してください。

第 8 章
無停電電源装置
(UPS) との連携

1. 本機と無停電電源装置（UPS）の接続

本機とUPSを以下の手順で接続します。

- 1) UPSとデ・ブートとを専用通信ケーブルで接続します。
専用通信ケーブルは弊社もしくは各UPSメーカーにご相談ください。
- 2) 本体前面DIPスイッチを設定します。
P13「第1章-1. DIPスイッチの設定」参照
- 3) デ・ブートの電源コードをUPSのACアウトレットに接続します。
- 4) UPSの電源出力を開始します。

2. Web ブラウザによる設定

1) ログイン

P24「第4章-1. ログイン」参照

Web ブラウザから本機に接続します。

トップメニュー画面で「設定メニュー」を選択します。

ログイン画面が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

設定メニュー画面で「UPS設定」を選択します。

UPS設定画面が表示されます。

UPS設定画面



2) UPSの設定

UPS名称

UPSの名称を設定します。半角英数字で最大20文字まで指定できます。

接続機器

UPSに接続している機器の名称を設定します。半角英数字で最大20文字まで指定できます。

UPSモニタ時間間隔

UPSのバッテリー状態、入出力電圧状態などをモニタリングする間隔を設定します。

設定可能値 : 0、10～60(秒)
デフォルト値 : 10

シャットダウン開始待機時間 (停電確認時間)

電源障害発生後、電源障害の解消を待つ時間を設定します。設定された時間が経過すると、本機は停電状態と認識し、バックアップ処理を開始します。設定された時間内に電源障害を検知した場合には、通常状態に戻ります。

設定可能時間 : -1～300(秒)
デフォルト値 : 120

「-1」 : 自動でシャットダウンを開始しません。
「0」 : 即座にシャットダウンを開始します。
「1～300」 : 指定した時間後、シャットダウンを開始します。

自動停止機能 (UPS出力停止機能)

停電時に、全デバイスのバックアップ処理を行った後、UPSの出力停止を自動的に行う機能です。UPSの過放電を回避するため、基本的には本機能は有効にしてください。ただし、使用するUPSが、出力停止をし、復電後に自動的に電源出力を開始しない仕様である場合は、本機能を無効にしてください。

デフォルト : 有効

停電検知レベル、ローバッテリー検知レベル、シャットダウン信号レベル

接点式UPSを接続する場合、UPSの接点信号レベルを設定します。使用するUPSの説明書を確認して、上記3種類の設定をしてください。

3) ログアウト

設定が終了し、Webブラウザを閉じる前にログアウト処理をします。

ログアウト処理

画面の下部に「ログアウト」ボタンがあります。ボタンをクリックします。Webコントロールプログラムからログアウトします。画面はトップページに戻ります。

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のままWebブラウザをとじた場合、一定時間他のホストから本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、本機に設定されている「自動ログアウト時間」を指します。

3. UPS の管理

トップメニュー画面から「UPS管理」を選択します。UPS管理画面が表示されます。この画面では、本機に接続されたUPSの状態を確認することができます。

UPSの管理画面



「設定更新」ボタンをクリックするとUPSの最新情報を取得し表示します。

操作終了後は、画面下部のボタン「ログアウト」又は「トップメニュー」をクリックします。Webコントロールプログラムを終了する場合は、必ず「ログアウト」してください。

第 9 章

システム情報一覧

1. システム情報について

本機に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

情報項目

- ・ システムに関する情報
- ・ ネットワークに関する基本情報
- ・ Outlet に関する情報
- ・ UPS に関する情報
- ・ セキュリティに関する情報
- ・ SNMP に関する情報
- ・ その他の情報

1) トップメニュー画面で「システム情報を表示」をクリックします。

2) ログインします。

3) システム情報画面が表示されます。

システム情報画面



終了は、画面下部のボタン「ログアウト」又は「トップメニュー」をクリックします。
Web コントロールプログラムを終了する場合は、必ず「ログアウト」してください。

第 10 章 SNMP の使用

1. SNMP について

本機はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理、電源制御を統合的に行うことができます。

2. MIB について

本機及び本機に接続するUPSを管理するためのプライベートMIBを準備しています。

付属CD-ROM内 本機-MIB (mibファイル)

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機及び接続されたUPSの管理をNMS上で行うことができます。

注意 MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。

第 11 章

ハードウェア仕様

一覧表

通信仕様	LAN通信仕様	DIX Ethernet Version2.0
		ICMP, IP, UDP, BBTP, DHCP, SNMP
		ECP, FTP, TELNET. HTTP
	LAN制御方法	SNMPマネージャー
		Webブラウザ
		Telnet
機能	電源制御 / 管理	電源ON
		電源OFF
		リブート
		電源状態取得
	遅延時間設定	電源ON遅延時間
		電源OFF遅延時間 (シャットダウン時間)
		リブート時間
	UPS連携	Ethernetコンバータ機能
		停電時連動機能
	シャットダウン機能	あり : 接点信号
		電源障害信号出力
		ローバッテリー信号出力
		出力停止信号入力
	カスケード接続機能	あり (合計2台 : アウトレット16個)
	状態監視	ping送信
		通報機能 : SNMPトラップ
自動電源リセット		
WOL対応機能	あり : MAGIC PACKET送信	
ハード仕様	インターフェース	10Base-T x 1 (形式はIEEE 802.3に準拠)
		RS-232C x 2 (Dsub9ピンオス)
		RJ11 x 8
	最大制御出力	100VAC 15A
	消費電力	最大7.5W
	外形寸法	445(W) x 43.4(H) x 200(D)mm
	重量	4.3 kg
	使用環境	温度 5 ~ 40
		湿度 20 ~ 85% (ただし結露なきこと)
	仕様電源	AC100V ± 10%(50/60Hz)

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写、複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

Windows95、Windows98、WindowsME、WindowsNT、Windows2000 は Microsoft Corporation の登録商標です。その他、記載の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

LAN・デ・ブート RPC6000L
ユーザー・マニュアル 第 2.1 版
著作権所有 明京電機株式会社 2002 年 4 月

明京電機株式会社

〒116-0012 東京都荒川区東尾久 4-27-2
TEL (03)3810-5580 FAX (03)3810-5546
URL : <http://www.meikyo.co.jp>
E-mail: info@meikyo.co.jp
